



聖アンデレ教会 教会報

さかえ

第 390 号

日本聖公会東京教区 聖アンデレ教会
〒105-0011 東京都港区芝公園3-6-18
TEL 03-3431-2822 FAX 03-3434-5698
www.st-andrew-tokyo.com
発行人: 牧師 司祭ステパノ卓志雄
編集人: ガブリエル新井悠
マリアモニカ横田美幸
ヨハネ柳生義人

「見えなくなったもの、見えるようになったもの」

牧師 司祭 ステパノ 卓志雄

聖アンデレ教会の礼拝堂の前に立っていたヒマラヤスギに、静かに別れを告げました。長い年月にわたり、飯倉交差点の風景の一部として、また教会の象徴のように私たちを見守ってくれていた木でした。しかし今後の管理や清掃の負担、そして高齢化に伴う安全面への配慮から、苦渋の決断として伐採することとなりました。寂しさがなければ嘘になります。それでも、これまで変わらず立ち続け、季節ごとにその存在を感じさせてくれたことに、心から感謝をささげました。現在は、約1mほどの株を残すのみとなりましたが、根はなお地中にしっかりと張り、西側の地面を支えています。その姿に、静かに別れを告げることができたような思いが、心の中に広がっています。

親しんだ姿はなくなりましたが、飯倉交差点からは聖アンデレ教会の姿が、以前にも増してはっきりと見えるようになりました。

主イエス・キリストの復活は、「光」が「闇」に打ち勝った出来事です。復活とは、単に失われた命が元に戻ることはありません。闇の力、すなわち罪や不安、恐れ、絶望が支配しているように見える世界に神の光が差し込み、その闇を打ち破る出来事です。ヒマラヤスギがあった時、私たちはその大きな存在に守られているような安心感を覚えていました。しかし同時に、その木は教会の姿をやや覆い隠していました。伐採によってその姿がなくなったとき、確かに寂しさという「影」が心に差しました。しかしその影の中で、これまで見えにくかった教会の姿が、光の中にはっきりと現れてきたのです。

それはまるで、復活の朝の出来事のようにです。

深い闇に包まれていた世界に、神の光が差し込み、すべてを新しく照らし出す。闇が完全に消え去るわけではなくとも、もはや闇は支配することができません。光がすでに勝利しているからです。

私たちの人生にも、さまざまな「闇」が訪れます。予期しない別れや喪失、不安や苦しみ、まるで光を遮るかのように感じられることがあります。しかし復活の主イエス・キリストは、そのような闇のただ中にこそ光として来てくださり、決して消えることのない命の光を与えてくださいます。

復活とは、過去がそのまま戻るのではなく、光の中で新しく生かされることです。失われたと思われたものの中にも、神の光はなお働き、私たちを新しい歩みへと導いてくださいます。

ヒマラヤスギの伐採という出来事を通して、私たちは一つの時代の終わりを経験しました。しかし同時に光の中で新しく見えてくるものへと招かれています。復活の主が共におられる限り、どのような闇も最終的に勝利することはありません。神の光は今も生きて働き、私たちを照らし続けています。その光に導かれながら、私たちは今日もまたよりまっすぐに、より明るく福音を伝えつつ、共に歩んでいくのです。



飯倉交差点から眺めた聖アンデレ教会。
左:ヒマラヤスギの伐採前 右:ヒマラヤスギの伐採後

教会の諸活動報告

チャリティーコンサートを終えて…

ブリジェット 堀江真理子

2019年に第4回のチャリティーコンサートを行なって以来、7年ぶりの開催となったコンサートは私にとって非常に感慨深いものでした。再び聖アンデレ教会の聖堂で、音楽家の仲間たちと演奏できる喜びを噛みしめておりました。チャリティーコンサートの再開を提案してくださった卓司祭様、そして準備から当日の運営までご尽力いただいた委員の皆様には心より感謝申し上げます。そして会場に足を運んでくださった皆様、本当にありがとうございました。皆様の温かなまなざしを感じ、音楽を通じて一つになれたような素晴らしい時間を過ごすことができました。

今回は『春を待ち望むコンサート』と題し、エルサレムおよび中東聖公会を通じてガザ地区の復興支援に寄付するためのチャリティーコンサートでしたが、沢山の方のご支援とご協力を賜り、深く感謝いたします。

20代の頃、留学していたパリの学校の学生食堂で、絶対に席を共にしない学生同士を何度も見かけ、不思議に思いフランス人の友達に質問したところ、「彼らはユダヤ人とパレスチナ人だからね」との答え。その時初めてイスラエルとパレスチナ問題を知り、世界のことに無知だった自分を恥ずかしく思いました。もう50年も前のことです。その問題がいまだに何も解決していない、むしろ悪化していることに愕然とします。

紛争の終結は見通せない状態ですが、この問題に常に關心を持ち、祈り続けることだけは忘れないようにしたいと思います。

春を待ち望むコンサートを終えて

アグネス 藤山 瑠衣

3月7日(土)、やわらかな木漏れ日が差し込むなか「堀江真理子と仲間たち 春を待ち望むコンサート」が開かれました。

パンデミックを経て、チャリティーコンサートは約7年ぶりの開催となりました。卓先生をはじめ、実行委員の

方々の細やかなサポート、多くの方々のお支えと導きによって恵みに満ちた時間となりましたことを心より感謝いたします。

プログラムはビゼーのピアノ連弾、モーツァルトのディベルティメントやピアノ四重奏など、ぬくもりある名曲の室内楽をお愉しみいただきました。私は初めて堀江先生とピアノ連弾をさせていただき、同じピアノから奏でる先生と私の音の違いに愕然としながらも、より深い気づきと学びを得ることができました。聖アンデレ教会で皆さまに見守られながら堀江先生と共演できたことを大変嬉しく、感慨もひとしおでした。

ヴァイオリンに佐藤慶子さん、ヴィオラに中竹英昭さん、チェロに黒川正三さんをお迎えして演奏されたモーツァルトのディベルティメントは、それぞれの音色が優雅に重なり合い、アンサンブルが心地よく響き渡りました。皆さん堀江先生と同じく藝大時代のお仲間ということもあり、当時の懐かしいお話や親しげな様子が随所に垣間見られました。そのご様子の通り、ピアノ四重奏ではユーモアなかけ合いと共に華やかな協奏。アンコールではエルガーの『愛の挨拶』が演奏され、美しい音が響き合いながら会場が祈りに包まれました。卓先生が「耳を傾けること」が祈りの本質だとお話してくださるように、私は堀江先生のピアノや室内楽を通してそれを深く感じています。

自分の正義や価値観を振りかざすのではなく、自分と他者との音(声)をよく聴いて調和できたらどんなに美しいでしょう。でもその難しさを戦争や紛争が絶えないこの世界は痛いほどに教えてくれます。それでも光を信じて祈り続ける、今回のコンサートも皆さんのあたたかな働きやお支えのもとに聖アンデレ教会としてのハーモニーを感じた気がします。

ガザ地区への復興支援として、物質的なものだけではなく、どうかこの祈りと響きが届きますように。



洗礼、堅信にあたって

ヨセフ 山口英男

私が教会と関わりを持つようになってから30年以上になります。妻が子供の頃に洗礼を受け聖公会の信徒だったこともあり、クリスマスやイースターの際に礼拝に参加するようになったのが始まりでした。

結婚後は、妻が堅信し、三人の子供たちは幼児洗礼を受けましたが、私は信徒にならず過ごしてきました。そんな私が今回洗礼を受けようと思いついたのは、今まで関わってきた教会の皆さんとの出会いが大きいと感じています。2003年に長男の誕生と同時に仙台へ転勤した際に、東北教区の加藤主教にお声がけいただき、仙台聖フランシス教会で乳飲み子とともにお世話になりました。東京に戻ってからは聖アンデレ教会で三人の子供たちと共にお世話になりました。皆さんとの関わりと、最終的には卓先生に後押しをいただいたことで、ついに一歩を踏み出すことを決心しました。



この先、教会との関わりを深めながら残りの人生を進んでいきたいと思えます。今後とも、どうぞよろしく願います。

キリスト教と私

ラケル 安形 ふさ子

主に在るお交りを感謝申し上げます。私がイエス様に捕えられたのは十九才の時でした。幼なじみの友人から「今晚、うちでキリスト教の集りがあるから来ない？」と誘われ、興味半分で参加しました。

宣教師はアメリカ人、流暢な日本語でお話になる事柄はチンプンカンプン、なのに何故か気分良く刻を過ごしました。その時を境に毎週友人のお誘ひがあり、疲れているのにいそいそと参加し、楽しく刻を過ごしました。そして気がついた時にはキリスト教の勉強に一生懸命でした。宗派は「ルーテル」、聖書の勉強のかたわら町々村々を宣教師や信徒の皆様

と、中型のトラックに大きな箱に「あんぱん」をいっぱい積んで、小さな公会堂や集会場で、イエス様のご生涯を描いた映画を上映し、宣教に励みました。映画を上映後、参加の人々に一つずつ「あんぱん」を差し上げました。何故かみんな静かにお行儀よく、それぞれの家に帰って行きました。

そんな宣教のお手伝ひをしているうちに、私も洗礼を受けようと思うようになりました。わが生家は古い古い仏教の家。キリスト教信者になり度いなどと云おうものなら、父から一言のもとに否定されるだろうと思ひ乍ら、恐る恐る話したところ、案に相違して「親子でも信教は別。お前が熱心に学んでいることだから、自分の思ふようにしなさい」と快諾して呉れました。

刻を経て、私は日本聖公会東京教区聖アンデレ教会で結婚式を上げました。婚家先・安形家は一族みなキリスト教徒、聖アンデレ教会の信徒として過ごして居ました。

嬉しいこと、悲しいこと、思案に暮れることなどなど、礼拝に参加し、司祭様はじめ信徒の皆様とお交りのうちに、難題と思案に暮れたこともなぜか良い方向にゆき救われました。

安形家は、ここ数年大きな環境の変化に翻弄されました。「神様、助けて！！」と唱え乍らの日々を送りました。これから先も「神様、神様」と御名をよぶことでしょう。イエス・キリストを主とあがめ、何事もイエス様の御力を頼りに生きてゆくことでしょう。

今年もお餅つき

ヨセフ 藤波勝久



今年も教会の皆様に対する日頃の感謝の気持ちを込めて、お餅つきを行いました。スカウト保護者のお父さんたちの協力のもと25キロのもち米が一気につきあがりました。

今後ともガールスカウト、ボーイスカウトのご支援ご協力をよろしく願います。ありがとうございました。

祝ご復活

マルタ 村田信子

今年のイースターは未明までの雨も上がり、清々しいご復活の朝から始まりました。7時半聖餐式30名、10時半聖餐式152名、13時半こどもとともにささげる礼拝165名、晩祷5名の方々の出席がありました。特に10時半の聖餐式では洗礼式、初陪餐が行われ、また礼拝後には卒入学のお祝いも行われ、出席された子供を含め18名の子供の成長を皆でお祝い致しました。

礼拝後には愛餐会が行われ、席が足りないほどの方々をご参加下さり、美味しいカレーをいただきながら喜びの溢れた一時を過ごすことができました。午後にはガールスカウト、ボーイスカウトも参加してこどもとともにささげるイースター礼拝が元気に捧げられました。礼拝後には大好きなエッグハンティング、歓声のうちに子供のプログラムも終了となりました。晩祷を含め各礼拝参加者には教会より恒例のイースターエッグのプレゼントもありました。イースターの諸準備に関わってくださった皆様に心より感謝申し上げます。



2026年聖アンデレ教会イースター

信仰こそ光

セシリア 米田睦美

私は5代目のクリスチャンの家族に生まれました。しかし、私が神様に会ったのは20歳で韓国に渡ってからでした。幼い頃の信仰はほとんど記憶にありませんが、韓国で触れた信仰は今も心に深く刻まれています。

私たちは順調な時には神様を遠く感じがちですが、試練の中ではその近さを強く感じます。御言葉が胸に響き、祈りにも自然と心がこもるようになります。神様は試練を通じて私たちを再び呼び寄せ、

正しい方向に導くための軌道修正として苦しみを与えられたのだと私たちは後から気付くことがあります。

昔ソウルの主教座聖堂で耳にした言葉が、今も心に残っています。「夜明け前が一番暗い」。神様の導きの中で、苦しみに耐えがたいと感じるとき、この言葉は私を支えてくれました。私はこの光こそが信仰であると思っています。これからアンデレ教会に根を下ろし、光を信じ、自分も誰かの光になれるように歩いて行ければと思います。

ヒマラヤ杉を切りました!!

ヨセフ 藤波勝久

聖堂の前に立派なヒマラヤスギがあります。今や高さ30mを超える巨木となり教会のシンボルのような樹木になっていました。ただその木があることで、道路から教会が全く見えなくなり。またこの木の剪定を数年おきにやってきましたが、毎回何十万もの費用が掛かるようになってきました。今回西側がけ地プロジェクトで前庭の整備を検討した中で教会の視認性を図ること、枝が伸びすぎていて、このままでは通行人に危険を及ぼすおそれがあることから、伐採の方が良いということになり、教会委員会に諮り伐採することといたしました。

伐採工事は、普通の植木職人でできず、空師という特殊技能を持った方をお願いして、クレーンにつり下がり、一枝ずつ上から切っていく特殊な方法で伐採しました。樹木根元は1m残し、感謝の気持ちをこめてモニュメントにしたいと考えております。年輪を数えましたら57本ありました。おそらく1960年代から教会にあったものと思われます。

本当に長い間ありがとうございました。

初めての教会委員

ペテロ 杉山諭

主の平和。この度、皆様からの信任によって教会委員に初選任された杉山諭と申します。生まれは1975年、昭和50年の現在50歳です。

私の父は杉山晴比古といい、かつてアンデレの信徒でした。現在は静岡県の伊豆聖マリア教会にて同じく教会委員を務めていると思います。もしかした

ら、臆気ながらに父晴比古の事をご存じの方もいらっしゃると思います。私も父も幼少期アンデレ教会を遊び場として過ごしてきました。

ですが私は学生時代と勤め人の頃は、日曜日の休みが大変貴重なため、教会から足が遠のいていました。

しかし、現在はある程度、時間を自由に使える職になったため、子供の頃から大変お世話になってきたアンデレの運営に微力でも貢献出来たら良いなと思ひ教会委員として活動する事を受任しました。ようやく大人の仲間入りをした気分です。私が子供の頃に、既に大人だった皆様と教会の運営に携わる事ができる事を大変感慨深く感じております。

ですが、教会委員会の議事録や総会資料、早朝及び晩、関係なく送付される緻密な内容の電子メール等、皆さんの「しごでき(仕事ができるの意味)具合」に大変びびっています。そして教会委員会の会議も13時30分開始で休憩なしで18時まで続くのがザラ！これで更に、教会委員の仕事にびびっています。冬の間は18時だと周りは真っ暗です。これは、平日に勤め人をしていて、日曜日が教会委員だったらと考えると、精神的に鬱になりそうだと推察します。皆さんの現在の、もしくは往年の実社会でのお働きぶりを垣間見る事ができます。もっと皆、いい加減にやれば良いのに。いい加減は「良い加減」とも申します。私は一見すると真面目に見えるのかもしれませんが。それにより皆さんからの信任の票を頂戴したと思います。

ですが、皆様の期待に反して、私の能力は然程に高くは有りません。これからはつぶれない程度に「良い加減」を探りつつ、最初は周りを良く観察をして広く浅く教会委員の仕事を見極めて永く勤めて行きたいと存じます。皆様、誰にも最初の1年があります。どうか何も期待せず数年、生温かく私を見守っていただけますよう何卒お願いいたしますと同時に長い目で私を育てていただけますよう宜しくお願いいたします。

ハラスメント委員会

マリアモニカ 横田美幸

2月7日にアンデレホールにて、西原美香子先生を講師にハラスメント防止研修会が行われました。

日本聖公会ではセーフチャーチガイドラインの制定を目指すとのことです。

聖アンデレ教会の音楽奉仕 Part1

聖歌隊 ガブリエル 新井悠

日々の礼拝を歌で彩る聖歌隊(クワイア)、興味はあっても活動内容は不明だし歌が上手そうな人ばかりで尻込みしちゃう…

そんな事はありません！皆様が聴いている歌声は誰でも出来るよう手厚いサポートの下で作られています。そんな聖歌隊の普段の活動内容をご紹介します。

■毎週日曜のルーティン

9時45分 礼拝で歌う聖歌のリハーサル。ここでは奏楽者(オーガニスト)と音と曲の進行を軽く確認します。

10時30分 礼拝中の聖歌について、1番は聖歌隊がメロディーのお手本となって会衆を導き、会衆が慣れてきた2番以降はハーモニーをお届けしています。(例外あり)

12時30分 礼拝後に次週の聖歌を予習します。各パートも音程が不安な方や譜面を読めない方向けに「音で覚える」練習を心掛けています。

■レッスン(月1~2回/14時~)

経験豊富な音楽の先生が、綺麗な声を出すためのトレーニングや種々の行事で奉唱する本格的な曲(アンセム)の練習を懇切丁寧に指導していただきます。このレッスンを続けると、数ヶ月で地声からちゃんとした歌声に変わるのが実感できます。

■聖婚式・葬送式(不定期)

皆様の人生の節目を歌で彩り後押しする、これも聖歌隊の役割であり醍醐味です。

これだけ羅列すると一見ハードスケジュールに思えますが「参加は出られる時だけでOK」がアンデレ聖歌隊のモットーです。全部参加する必要はありません。(実際数ヶ月毎に参加の方もいらっしゃいます)

最後に歌ったのはクラス合唱やカラオケ以来だけど、また何かやってみたいというその貴方、「みんなで作る」喜びをぜひ聖歌隊で味わってみませんか？

白いローブを着た隊員へお気軽に話し掛けてみてください。

中高生から大学世代の交流会に参加して

アシジのフランシス 築田 樹

4月29日に大岡さんに誘われて交流会に参加しました。

今回のイベントは、知っている人だけど話したことがあんまりない人達の繋がりを深めようと大岡さんと大学生達に企画されました。まずアンデレ教会でご飯を食べて、自己紹介などをしてからアンデレ教会を出発しました。まず青山霊園を目指して、歩き始めました。

青山霊園は、いつも車で行くので、歩いて行くのは、いつもとは違って、楽しかったです。また、いつもは忙しそうで中々ゆっくり話せない卓先生とも話し合うことができ嬉しかったです。

青山霊園に着いたら、まず、卓先生の解説を聞きながら外人墓地を巡り、アンデレ教会の墓地に行き、お祈りをしてアンデレ教会が管理する他の教会や個人の墓地を巡りました。

そして卓先生の管理するミカエル教会へ行き、礼拝堂を見たり、お祈りをしました。

そして帰りは、電車に乗ってアンデレ教会に帰り卓先生にお祈りをしてもらい解散しました。

普段話さない人と色々な話ができ、参加して良かったなと思いました。



は、いつもとは違って、楽しかったです。また、いつもは忙しそうで中々ゆっくり話せない卓先生とも話し合うことができ嬉しかったです。

各種お知らせ

2026年5月16日	落語会
2026年5月24日	聖霊降臨日
2026年6月7日	創立記念日 堅信式
2026年6月21日	聖オルバン教会 合同礼拝

コイノニア

【青山墓地短信】

5月より、青山霊園・アンデレ教会共同墓地の墓誌に関連する工事を行います。

墓誌の刻銘スペースを増やし、隣接の墓石を移動します。

墓地委員より



佐久間先生
送別会



佐久間先生から贈呈
された事務室の時計

※ 3月29日には佐久間先生の送別会を、アンデレホールにて行いました。佐久間先生との温かな交わりの時間に感謝いたします。



YouTube
広報チャンネル



インスタグラム



聖アンデレ教会
ホームページ



Facebook

※ さかえへの寄稿ボランティアを募集しております。
寄稿文・写真等よろしくお願ひいたします。